

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポートほっぷ		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 16日		～ 令和8年 3月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 16日		～ 令和8年 3月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共感的な支援とこどもとの信頼関係の構築	保護者アンケートで100%の「はい」を得た「職員からの共感的な支援」を軸に、子どもが通所を楽しみにできるように配慮しています。具体的には、子ども自身が自分の「好き・嫌い」を調べる「好き嫌いしらべ」や、グループ活動においてはグループの子どもに合わせたパワーポイントによって、可視化した情報をもとに話し合っ計画を立てるようにしています。	子どもたちが見通しを持ち、自ら活動を選択・決定できるような視覚的支援(スケジュール管理等)をさらに充実させます。
2	保護者との情報共有	お迎え時や送迎時などの引継ぎや、LINEを使用した情報共有で日々の活動内容や子どもの様子を迅速に保護者へ伝達したり、定期的にお便りを発行することで共通理解を図っています。	現在実施している「卒後の会」や「こすもすの会」、「子育て応援ミーティング」に加え、子どもの育ちに関わる研修会の開催などを通して、対面による保護者同士の交流の機会の拡充を検討します。
3	地域に開かれた事業運営と多様な体験活動	個々に希望やニーズに応じ、ボランティアと交流したり、積極的に実習生を受け入れたりすることで、普段関わることが少ない、多様な大人と関わる機会を設けています。また、ちいき食堂やまちゼミへの参加などを通じて、事業所内だけでは得られない多様な多世代交流の機会を作っています。	子どもが地域そのものを安全・安心な居場所と感じられるように、今後も様々な機関と繋がり続け、交流の質をさらに高めていけるようにします。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	振り返り時間の確保不足	従業者の評価で「支援終了後の打合せ」が不足しているとの指摘がありました。これは、非常勤職員を含めた各職員の勤務時間が揃わず、全体で集まる時間を物理的に確保することが困難であったことが主な要因です。	来年度から正式に支援終了後の振り返り時間をスケジュールに組み込み、(例えば次の日の午前中に行うなど)、短時間でも全職員で気づきを共有できる体制を整えます。
2	物理的環境の構造化とプライバシー配慮	玄関の段差などのバリアフリー面や、活動室の仕切りによる構造化が不十分な箇所があり、障がい特性への配慮に課題を感じています。また、玄関掲示による個人情報の露出について保護者から不安の声が上がっています。	玄関の利用者名表示をイニシャルやマークへ変更したい方について希望を受け付けます。プライバシー保護を徹底します。また、障がい特性に応じた室内空間の仕切り設置や整理整頓を行い、子どもが落ち着いて過ごせる「構造化」を推進します。
3	安全管理情報の内部周知	アレルギー情報や事故防止マニュアルについて、一部の従業者から「周知が不十分」との意見が出ており、情報共有の仕組みに漏れが生じています。	アレルギー一覧表を事務室内に掲示するなど、どの職員でも一目でリスクを確認できる状態を作るとともに、定期的なマニュアル研修を実施して全職員の意識を高めます。